

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第16週（4月17日～4月23日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症、増加続く」

第16週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,126例であり、前週比24.4%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.83、2.92、1.09、0.33、0.30である。

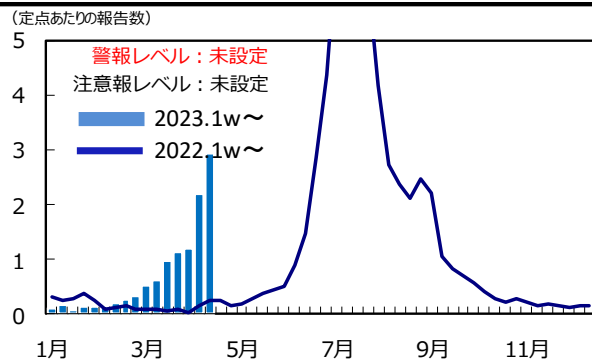
感染性胃腸炎は前週比18%増の1,137例で、南河内10.19、大阪市北部7.43、堺市6.61、中河内6.35、泉州6.15であった。

RSウイルス感染症は32%増の569例で、大阪市北部5.57、泉州4.10、堺市3.67である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は36%増の212例で、南河内2.50、大阪市北部2.07、大阪市南部2.00であった。

流行性角結膜炎は143%増の17例で、豊能1.80、泉州・大阪市東部0.50である。

RSウイルス感染症



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

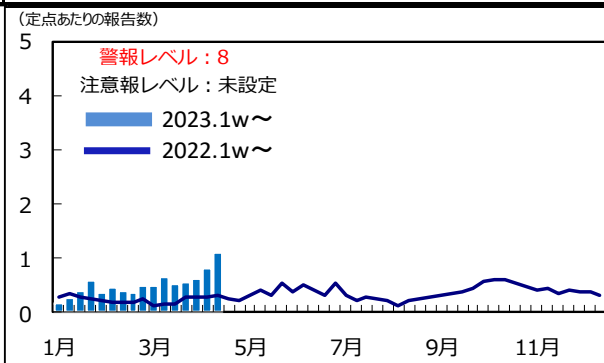


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第16週4月17日～4月23日）

第16週の順位	第15週の順位	感染症	2023年 第16週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第16週の 定点あたり 報告数	2023年第16週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.83	18%増	2.85	1歳_16%
2	2	RSウイルス感染症	2.92	32%増	0.25	1歳未満_32%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.09	36%増	0.31	5歳_14%
4	6	流行性角結膜炎	0.33	143%増	0.12	20歳以上_71%
5	5	突発性発しん	0.30	37%増	0.42	1歳_56%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

第16週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多い。

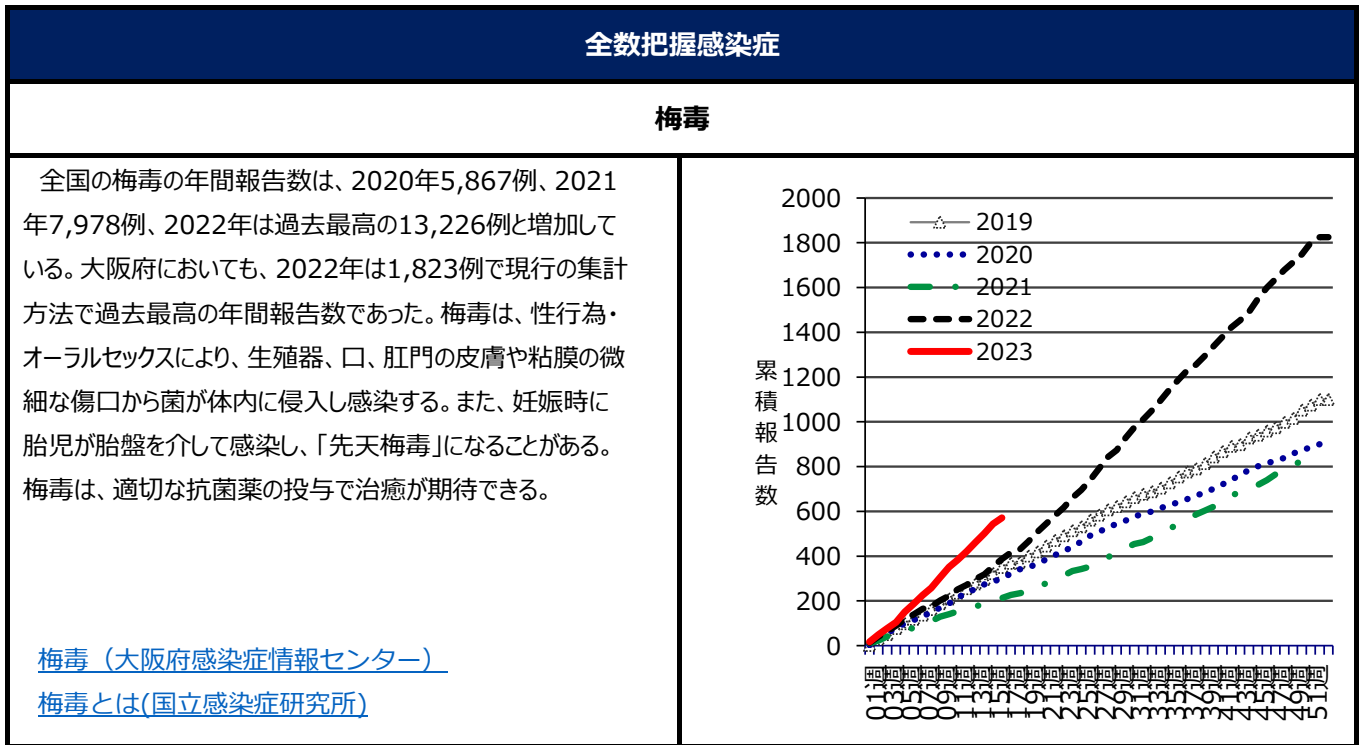


表2. 大阪府全数報告数（2023年 第16週4月17日～4月23日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内累積報告数									
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3					1				2	25
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2				1					1	33
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2									2	44
	侵袭性肺炎球菌感染症	4		1			1				2	37
	水痘（入院例）	1			1							4
	梅毒	27	3		3	1	1	1			18	571
	百日咳	1									1	9
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	4,822	2020年1月以降累計 2,839,962									
結核 (2023年2月分)	結核 新登録患者数：45名		(内 肺・喀痰塗抹陽性 20名) (府内累積報告数 112名、内 肺・喀痰塗抹陽性 42名)									

(2023年4月25日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降』の情報をご覧ください。](#)